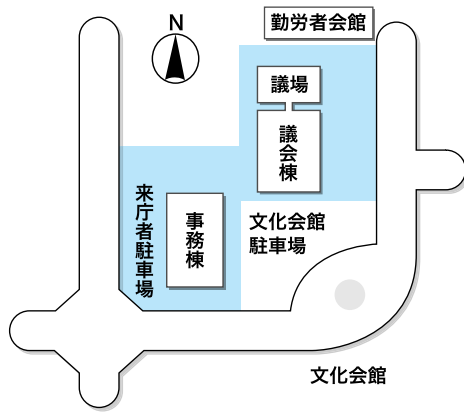


### 東仮庁舎 (浅沼町798番地・文化会館北側仮設事務所)



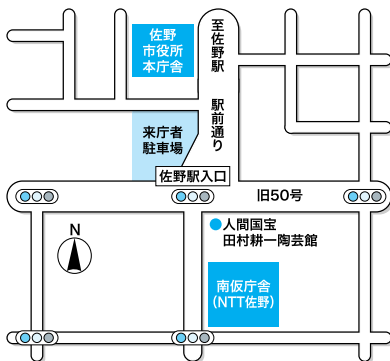
#### 【移転した各課】

市民税課、資産税課、収納課、佐野総合窓口課、社会福祉課、障がい福祉課、こども課、家庭児童相談室、保育課、医療保険課、いきいき高齢課、介護保険課、市民病院管理課、会計課、議会事務局、監査委員事務局、選挙管理委員会

今までの本庁舎(高砂町1番地)では、業務を行っていませんので、ご注意ください。

**本庁舎の解体工事に伴い、仮庁舎での業務が始まっています。**

### 南仮庁舎 (亀井町2658番地1・NTT東日本佐野ビル内)



#### 【移転した各課】

政策調整課、市民活動促進課、財政課、財産管理課、秘書課、行政経営課、危機管理課、消防室、人事課、人材育成センター、情報政策課、契約検査課、新庁舎建設準備室

## どまんなかフェスタ佐野2011開催

11月6日、佐野市の秋の恒例イベント「どまんなかフェスタ佐野2011」が戸室町の佐野市田沼グリーンスポーツセンターで行われ、家族連れなど大勢の来場者で賑わいました。

約110の出展ブースでは市の名産である佐野ラーメンやいもフライ、大根そば、しんこまんじゅうなどや採れたて野菜、手作りみそが出品されたほか、自衛隊車両や消防車、建設重機などが展示されました。



会場の中央にある特設ステージでは、地元で活動する各団体が出演。恒例となった「へそおどり」や、ダンス、歌謡曲が披露され、税金クイズ大会が行われたほか、「さのまる」が健康体操を披露しました。

## 防災協定を締結

全国で「へそのまち(中心地・重心地)」を呼称している7市町村(北海道富良野市・佐野市・群馬県渋川市・兵庫県西脇市・岡山県吉備中央町・熊本県山都町・沖縄県宜野座村)で構成される「全国へそのまち協議会」の総会が10月22日(土)、兵庫県西脇市にて開催され、「全国へそのまち協議会加盟市町村災害時の相互応援に関する覚書」が締結されました。

これにより、いずれかの加盟市町村域内において災害が発生し、被災した市町村で十分な応急措置が実施できない場合には、加盟市町村が



相互に応援し、食料品や医療物資の提供、職員の派遣などといった支援活動を実施することになりました。



市民記者が、あなたのまちのホットな話題をお届けします

庚申さま



申

散策する度に好きになる星の宮神社

佐野駅を西に、ホテルサンルート脇を抜けて神社の東側の道を行くと、庚申さま、お地蔵さまが何気なくいらして、野々花も色を添え、木漏れ日に蝶も上下しながらヒラヒラと舞っていました。頭上にはケヤキや樫の大木が覆い、胸一杯にオゾンを感じ込み、さすがしく何か得をした気分になります。

正面には天明鋳物師たちが作った見事な鳥居と鉄の燈籠があり、右手に機殿神社、稲荷神社の格子を覗くと、別世界が現れます。丸鬘を結った商家のお内儀、山高帽の紳士、印半纏の職人衆が行き交う気配を感じました。

石段を登ると本殿、浅間神社雷電さま、神楽殿。本殿左手の階段中腹に弁財天がお祀りしてあり、鋳造した蛇のリアルなこと、アツと驚くこと受け合いです。

なんとなく忙しい師走。皆さんも、こんな別世界にいらしてみたいはいかがでしょう。  
(市民記者 田島広子)

### 全国第3位の快挙!!



自動車整備士の甲子園(全国大会)があることはご存じでしょうか?自動車整備の技能やお客さんとの対応方法などを競う大会です。栃木県は上位入賞の常連であり、全国でもトップレベルの県だそうです。

栃木県自動車整備振興会佐野支部は栗田哲男さん、永島学さんを代表選手とし、9月11日に宇都宮市の日産学園で行われた第17回栃木県自動車整備技能競技大会(県大会)に挑み、見事初優勝されました。

そして、11月5日に東京ビッグサイトで行われた第18回全日本自動車整備技能競技大会(全国大会)に栃木県代表として出場。見事、第3位という快挙を成し遂げました。

選手の方の頑張りはもちろんですが、歴代選手から受け継いだノウハウと佐野支部の団結力があっての結果だと思えます。支部の皆さんは、「これからもこの成績に満足することなく、今後も技術レベルの向上に努めるとともに、お客様に安心して車に乗っていただけるよう努力していきます」と意気込みを語ってくれました。

佐野弁ばんざい

### 食後の休みを ゴクヤスミという

もう少しで仕事に切れ目がつきそうなとき、時間外になっても働くことがあります。このように無理をしても仕事にけりをつけることをオエシゴト(終え仕事)といいます。

「畑仕事も、もうちょっとやればひと区切りつくから、それでオエシゴトにスンペー(しましよう)」

かつて昔の人は、食事休みをとるのも惜しんで働きました。だがそれはからだによくないということで、どんなに忙しくても食後には休むようになりました。その休みを特にゴクヤスミということがあります。

昔から「親が死んでもゴクヤスミ」という格言めいたことばがあります。親が亡くなって、気分的にも肉体的にも落ち着けない忙しい時でも、食後の休みはとるようという戒めの意が含まれています。

ゴクヤスミは穀休から出たことばです。「穀は食べ物」の意で、食事をしたあとの休みという意味です。

野上地域には、明治のころ、出棺前の僧侶が読経しているときに、羽織袴を着た人が座敷に出て、お鉢を人々に回し、二、三箸ずつ食べてもらうという風習がありました。この風習をゴクヤスミとかジキヤスミといっていました。

ジキヤスミは「食休」のことで、ゴクヤスミと同じ意味です。どんな悲しいときでも、気ぜわしいときでも軽い食事をとって休み、心身を落ち着かせましょうという意味です。

(市民記者 森下喜一)

訂正とお詫び 広報さの11月1日号27ページ「佐野弁ばんざい」の記事中、タイトルに誤りがありました。正しくは「おはじきをキシャゴといった」です。訂正してお詫びします。

お知らせ